

名城同窓会ニュース

令和6年3月1日発行
第48号
 発行者 福江 美智子

名城大学附属高等学校同窓会 〒453-0031 名古屋市中村区新富町 1-3-16 TEL (052) 481-7436

名城オリンピック&文化祭

～生き生きとした生徒たちへの後押し～

目次

- ご挨拶 2
- 同窓会役員(第17期)紹介 3
- 第2体育館火災 応援プロジェクトの案内 ... 4
- ◆トピックス(行事)
- 同窓会プレゼンツ 次世代リーダ講座開催 ... 5
- 名城オリンピック 6
- 芸術鑑賞会と文化祭 6
- ◆トピックス(教育)
- 第2回「探究Day」開催 7
- アントレプレナーシッププログラム始動 ... 7
- SSH東海フェスタ 8
- スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 ... 8
- ◆地域で活躍
- 放送部 中村区の非行防止イベントに参画 ... 9
- 総合学科 愛知県赤十字血液センターとの交流 ... 9
- ◆部活動等報告
- ウエイトリフティング部 10
- スキー部 11
- 陸上競技部 11
- 体操競技部 12
- ダンス部 12
- 新任教諭紹介 13
- 退任教諭紹介 13
- 物故者 13
- 名城大学附属高等学校ゆかりの物品 14
- 学校法人名城大学への募金・寄付について ... 14
- 令和5年度事業報告 15
- 令和5年度収支決算 15
- 令和6年度事業計画 15
- 令和6年度収支予算 15



ご挨拶

名城大学附属高等学校同窓会
会長 福江 美智子

会員の皆さま方におかれましては、同窓会活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、今年度新しく同窓会に入会されました卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

このたび、後藤健太郎前会長の後を受け、名城大学附属高等学校同窓会会長を務めさせていただくこととなりました平成15年卒業生の福江美智子でございます。今日まで歴代会長をはじめ、多くの役員の皆様、同窓生並びに地域の皆様のご尽力によって築かれました本会の歴史と伝統を振り返りますとき、その職責の重さに身の引き締まる思いがいたしております。微力ではございますが、同窓会の充実発展に向けて誠心誠意努力して参る所存でございます。皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆様におかれましては、これから進学される方をはじめ、様々なフィールドでご活躍されることと思います。その中で、今では想像がつかない環境の変化があるかもしれません。事実、私が高校を卒業した際には、全科の男女共学化、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定など、今の附属高校を想像することはできませんでした。しかし、変わらないことは、高校での学び、友人関係、思い出たちです。特に、名城大学附属高校の教育の特色である「生きる力」を十分に付けられたことと思います。今は、ご自身の中で実感が湧かない方もおられるかもしれませんが、これから社会にでた際には必ずこの力は皆さんの武器になり、変化を楽しむことができることでしょう。名城大学附属高等学校生としての誇りを胸に、益々ご活躍されますことを心より期待しております。

最後になりますが、新型コロナウイルスの影響による制限が少しずつ緩和される中、私たち同窓会役員一同は、感染拡大防止を十分に心掛けながらできる限りの活動をして参りました。2年後の2026年には、開学100周年という記念すべき年を迎えます。開学100周年記念事業の実現と成功に導くためには、卒業生の皆様のご理解とお力添えがなくては成し得ることはできません。是非とも、これを機に同窓会事業への積極的なご参加をお待ちしております。

名城大学附属高等学校と同窓会の益々の発展のため、同窓会役員一同、努めて参りますので、今後も末永く、会員の皆様方のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



前会長ご挨拶

名城大学附属高等学校同窓会
前会長 後藤 健太郎

会員の皆さま方におかれましては、平素より同窓会活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、今年度、新規に同窓会へ入会されました卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。4万8千名を超える同窓生の一員として、大学生、社会人として大いに飛躍していただくことを祈念いたします。

さて、私事で恐縮でございますが、令和6年1月28日をもちまして、名城大学経友同窓会選出による評議員就任のため、同窓会長を退任しました。

会長在任中は、新型コロナウイルスによる影響で思うような活動ができず、制限を余儀なくされました。そのような状況のなかでも副会長、書記、監査、学内幹事や学校関係者の皆さまは、出来る限りの同窓会活動をしてくださいました。ここに感謝を申し上げます。

今後、名城大学附属高等学校と同窓会の益々の発展に向け、福江美智子新会長のもと次期役員一同による新体制で、パラダイムシフトとイノベーションをおこす新たな同窓会活動に大いに期待したいと思います。

引き続き、会員の皆さま方におかれましては、同窓会活動に対し、末永くご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同窓会役員(第17期)紹介

第17期の任期は、令和4年4月1日～令和6年3月31日までとなります。

任期途中ではありますが、令和6年1月29日付で会長が交代となり、福江美智子前副会長が会長に着任しました。なお、後藤健太郎前会長は相談役に就任しました。

任期満了に伴う、第18期役員につきましては、次号(第49号)にてご紹介いたします。

【第17期 同窓会役員名簿】

役職名	氏名	役職名	氏名
会長	福江 美智子	学内幹事(庶務)	藤原 和人
副会長	日置 慎二	名誉会長	中島 健
監査	紀 平 知 大	名誉会長	武村 學
監査	近藤 千春	相談役	後藤 健太郎
書記	鎌田 直洋	名誉顧問	伊藤 憲人
書記	鈴木 礼治	顧問	岡 充彦
学内幹事(会計)	安藤 真依	顧問	杉山 豊美

第2体育館火災

10月23日(月)20時頃に第2体育館で火災が発生しました。火は30分ほどで消されましたが、完全に鎮火されたのは約5時間後で、体育館は全焼となりました。

幸い、生徒・教職員にケガをされた人はおらず、また、近隣への延焼、住民の方でケガをされた人もいませんでした。

第2体育館は1987年に建てられ、体育授業をはじめ、体操競技部・卓球部・ダンス部・バドミントン部などの活動場所として使用されていました。また、第2体育館には室内プールも併設されておりましたが、プールへの延焼はありませんでした。しかしながら、電気設備などが同一設備のため、プールの利用もできなくなりました。

なお、活動の代替としては、第1体育館や近隣施設などを使用して何とか活動ができている状態となっております。

<同窓会による『応援プロジェクト』発足!>

この度の火災をうけ、同窓会として、「少しでも早く復興してほしい!」「火事で活動の場所を失った多くの後輩たちへ何か支援をしたい!」という思いから、学校と相談し『応援プロジェクト』を立ち上げ、支援を行うこととしました。

支援策の一環として、寄付を募ります!

クラウドファンディング等立ち上げの案もありましたが、スピードを優先し、学校と相談して法人の寄付窓口を利用して寄付を募る方法としました。

専用のバナーを作成して、高校のホームページのトップ画面に掲載していただき、順に選択して進めるようになっていきます。一日でも早い復興を祈念し、多くの方のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

<以下、応援プロジェクト専用バナー情報と寄付の流れ>



「同窓会プレゼンツ 次世代リーダー講座」を開催



令和5年1月26日(木)、朝日新聞社名古屋報道センター行政担当デスクである星野典久氏による次世代リーダー講座が開催されました。講演テーマは「民主主義社会におけるジャーナリズムの役割とは」です。同窓会では今回、これまで行ってきた同窓会員向け文化講演会の形を変え、同窓会が附属高校で実施されている生徒(同窓会準会員)向けの講座を支援する形としました。附属高校では、全生徒対象に授業後を利用した様々な講座が開かれており、今回はその中の1つである「次世代リーダー講座」を支援することとしました。講師の星野氏は、民主主義社会は話し合いで様々な決定がなされるが、その話し合いの前

提となることは、正しい事実=ファクトであり、データであると説明されました。令和4年に行われたフィリピン大統領選挙において、SNS上で歴史を書き換えたフェイクニュースが広まり、選挙結果に大きな影響を与えたことについて、その内容を記した新聞記事を生徒たちに示しながら解説されました。星野氏は、「ネット上の情報は疑うこと」、メディアリテラシーが大切なことを強調されました。続いて新聞とネット情報の違いは何かについて話されました。新聞の記事は、一次情報から作成されており、その情報は正しいかどうかを、様々な情報を積み重ねながら新聞社内でも何度も確認しながら記事となっていくことを説明されました。安倍政権時代に官邸担当の記者であったことから、「国葬」「安倍のマスク」という話題にも触れられ、それらの出来事がどのように決定されていったのか、それに対し世論がどのように変化していったのかについても触れられ、新聞記事のどこに注目すると、出来事の真実に近づけるのかについても説明をいただきました。

質疑応答では、「どのように正しい情報を得たらよいのか」という質問に対し、いくつかの情報を比べてみるのが大切であると回答されました。また、ウクライナ戦争などについても生徒から質問がされました。

最後に、後藤会長が謝辞を述べ、参加生徒たちに正しい情報を得ることはビジネスの上でも大変重要であり、高校時代から星野さんが言われたように、情報を見比べるなどを意識していくとよいのではないかと話されました。

講演会后、同窓会からは参加生徒にパンやジュースなどが配付され、生徒たちは笑顔で会場を後にしました。



名城オリンピック

6月21日～23日、久しぶりに新型コロナウイルス感染拡大前の規模と内容で実施することができました。河川敷競技では全校生徒が一堂に会すことができ、応援も盛り上がり、生徒の満足そうな表情を見ることができました。天気の関係で晴れを想定した種目がすべて実施はできなかったことが少し残念でした。

同窓会から熱中症対策としてのドリンクの差し入れもして頂き、全校生徒に配布することができました。



【名城オリンピック結果】

総合優勝 1S2

準優勝 1S1・3A5



芸術鑑賞会と文化祭

10月4日に芸術鑑賞会、10月5日、6日に文化祭が開催されました。

芸術鑑賞会は、昨年に引き続いて60分公演の三部入れ替え制で開催しました。今年はいま線とヒューマンビートボックスなどの音楽鑑賞を行いました。

文化祭は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大前の形で実施することができ、食品バザーも復活しました。現在の生徒は初めて食品バザーを経験することになるので、販売する側もお客さんもともに楽しそうな様子が見られました。PTAの方々のくじも盛り上がり、おかげさまで充実した文化祭になりました。同窓会のブースにも多くの方が訪れ名城高校の歴史を感じていただくことができました。



第2回「探究Day」開催

2月24日と3月2日の2回にわたって「探究Day」が開催されました。この探究イベントは、総勢1,309名の1, 2年生が学年やコースの枠組みを越えて混ざり、グループを組んでテーマについて探究を行うものです。今年度は、4か月前から集まった62名の生徒実行委員と5名の3年生サポーターを中心に計画・運営がなされ、「『カーボンニュートラル』に対して自分たちはどんなことができるのか。本校発の実現可能なプロジェクトを考えよう」というテーマで活動しました。

今回は、初の試みとして、57名の社会人や大学生を助言者として招聘して、1名につき1教室を担当していただきました。これにより、生徒たちが「混ざる」だけでなく、生徒と大人も「混ざる」実践となりました。助言者には卒業生の皆さんも多く参画してくださり、生徒ともコミュニケーションをとってくださっていました。

生徒のアンケートからも「楽しかった」と好評な様子が伺えました。

〈実行委員長の2年生国際クラスの野村さんから一言〉私は探究Day実行委員長を経験して、仲間を巻き込みながらプロジェクトを成功させることの楽しさを実感しました。実行の過程には何度も壁に当たりましたが、いろいろなメンバーの力によって、それらを乗り越えていくことができたように思います。これからも、全校生徒が混ざり合って探究を楽しむ一日、そんなイベントとして続いていくことを願っています。



アントレプレナーシッププログラム

今年度から、全校生徒の希望者を対象に、アントレプレナーシップに関するプログラムを始めています。

アントレプレナーシップとは「起業家精神」と訳されますが、このプログラムでは、急激に変わっていく社会のなかで、新たな価値を生み出す姿勢や力、言い換えると「やりたいこと・やらなければならないことができた時に、躊躇なく進める気持ちと力」を伸ばしていくことを目指して、講座や取り組みを実施しています。

第一弾は「アントレプレナーシップ講座(アントレ講座)」として、希望者に向けて6月15日に導入講座、7月6日にデモ講座を行いました。その後、全校から集まった18名に対して、「Inspire High」の動画を通して、世界中で活躍するさまざまな大人たちが、仕事や人生を通してそれぞれ挑んでいるテーマについて触れ、彼らから出題される答えのない問いに挑戦する、という取り組みを開始しています。第二弾としては、1月18日に、元キックボクサー・ムエタイ選手で、現在は株式会社BRHT代表をしておられる卒業生の佐藤嘉洋さん(1998年卒業)を招聘して、「アントレプレナーシップ後援会」を開催しました。

アントレプレナーシップ教育については、国際クラスの課題探究活動などでは数年前から重視してきましたが、そのなかの一人である森本陽加里さん(2020年卒業)は、当時の「課題探究」の授業を通して、発達障害を支えるアプリ「Focus on」を設計し、日本政策金融公庫の高校生ビジネスプラングランプリでも審査員特別賞を受賞するなどしていました。大学進学後もその開発を進め、一般社団法人Focus onを起業して奮闘しています。

これからも、生徒一人一人がその人生において、やりたいことに向かって進み続ける気持ちや力を伸ばすことができるような取り組みを展開していきます。



SSH東海フェスタ2023

2023年7月15日(土)に名城大学天白キャンパスを会場に「SSH東海フェスタ2023」を実施しました。東海4県(愛知、岐阜、三重、静岡)のSSH指定校全校と、関東から2校、タイのPCSHSトラン校の生徒を合わせた24校が集まりました。対面開催は4年ぶりとなりましたが、総勢700名を超える参加者が集まり、熱気あふれる発表や議論が繰り広げられました。

口頭発表は分野ごとに5つの分科会で発表し、審査と名城大学の教員による講評を行いました。パネルセッション・ポスター発表ではブースの中で実験道具などを広げたオリジナリティあふれる発表やポスター発表での活発な質疑応答、議論が展開されました。

また、昨年度から開始した「共同研究募集」も展開し、学校の枠組みを超えて共に研究する仲間を募る様子も見られ、対面開催ならではの交流が生まれていました。



スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会報告

8月9日、10日に神戸国際展示場で開催されたSSH生徒研究発表会に、SSクラス3年生の服部さん、2年生の山本さん、横井さんの3名が参加しました。これは全国221校のSSH指定校の代表者が一堂に会し、その研究成果を発表するものです。

本校は、服部さんがSSラボの授業で取り組んでいる「舌構造から読み解くカラス類の食性」というテーマでポスター発表を行いました。カラスの舌標本の持ち込みが制限されている中、タブレットを活用する、自作した模型を用いて説明するなど、工夫を凝らした発表によって、ブースは常に多くの聴衆で賑わっていました。

こうした発表の工夫や3名の連携によって、聴衆の心を掴むことができ、「生徒投票賞」を受賞することができました。

<服部さんからの一言>

生徒研究発表会にて「舌構造から読み解くカラス類の食性」をテーマに発表させていただきました。名城高校の代表としてこのような機会をいただけたこと大変嬉しく思います。

発表会場には全国から科学好きの生徒が集まり、それぞれが強い関心をもって臨んだ研究の成果を共有していました。自分が面白いと思っているものを伝えたい、皆が面白いと思っているものを教えてほしいという、他では味わえない熱気に包まれ、充実した2日間でした。生徒間の交流も盛んで、活発に意見交流を行うことができ、多くの気づきや学びがありました。

私の研究テーマである舌は日頃あまり目にするものではありません。そのため、どれほど言葉で表現しても伝わりづらい部分がありました。山本君や横井君と意見を出し合い、少しでも研究成果を分かりやすく伝えられるようアニメーションや模型を用いて視覚的に表現するなど工夫しました。その結果として「生徒投票賞」をいただけたことを嬉しく思いますし、支えてくれた2名には深く感謝しています。

これまでの探究活動や生徒研究発表会での経験を基に、今後も研究活動に精進してまいります。



中村区（グローバルゲート）非行防止イベント 闇バイト啓発動画を制作

7月25日、グローバルゲートにて、中村警察署による青少年非行防止の啓発イベントが行われ、放送部が啓発の企画と動画制作とイベント当日の司会進行を担いました。

企画段階では劇団四季と連携し、「ありきたりな啓発イベントではなく、放送部だからこそ創り上げられる“等身大”のイベントにしよう」と、今回の啓発対象でもある「青少年」にあたる部員たち自身が主体となって取り組み、「青少年」だけではなく大人に対するメッセージにもなりました。

啓発動画は、闇バイトに申し込もうとした高校生を主役としたドラマ仕立てで、「JICA（国際協力機構）中部での校外学習から、厳しい環境の中でも夢や理想を追う途上国の若者たちの姿を知り、お金の釣られて安易に行動することの至らなさに気付く」という作品になりました。非行によって失うものを描くのではなく、視野を広げて相対的に自己を省みるような描き方で、観る人の心を揺さぶる作品になりました。実際に会場のスクリーンで流れる動画をみた部員の表情からは、安堵と愉悦が窺えました。

当日の司会進行も、周りの方々に助けられながら臨機応変に対応して無事に終えることができました。

今回、劇団四季やJICA、密着してくださっていた中日新聞やテレビ愛知の方々との関わり合いの中で、一生懸命取り組む自分たちの想いに応えてくれる大人がいるということに改めて気付けたのではないかと思います。それこそが、非行防止につながる経験なのかもしれないと感じられました。



総合学科 愛知県赤十字血液センターとの交流

3年生地域交流系列で地域貢献活動の一環として愛知県赤十字血液センターと共同企画を10月5日に開催しました。

当日は、献血車を本校に呼び、本校生徒を中心に献血に協力してもらいました。多くの生徒の協力を受け血液事業へ貢献することができました。

愛知県赤十字血液センターとの打ち合わせを何度も実施し、高校生徒会との交渉も自分たちで行い、ひとつの企画を実現することの大変さを学びました。後日、愛知県赤十字血液センターから感謝状をいただき、忘れられない経験となりました。



全国大会等に出場した部活動等報告

ウエイト リフティング部

- ◆令和5年度 全国高等学校総合体育大会 出場
男子55kg級（西田航太郎）、男子61kg級（森下亜依人 スナッチ5位入賞）、
男子61kg級（佐藤虎爾 スナッチ7位入賞・トータル8位入賞）、男子67kg級（須田健司）
女子55kg級（坂本和琴 ジャーク7位入賞・トータル8位入賞）
- ◆令和5年度 第2回全国高等学校女子 出場
55kg級（坂本和琴）、55kg級（木村日菜）、55kg級（山田優）
- ◆特別国民体育大会
男子55kg級（西田航太郎）スナッチ8位入賞、男子61kg級（佐藤虎爾）スナッチ8位入賞

『一生の宝物』

総合学科3年 森下 亜依人

僕はこの3年間、ウエイトリフティングという競技に没頭し、一生の仲間と出会えました。

入部のきっかけは、何気ない勧誘でした。中学までは軟式野球を9年間続けていて、勧誘時も、「そもそもウエイトリフティングってなんだ?」と、右も左も分からない状態でクラブハウスへ向かったことを覚えています。クラブハウスに到着すると、そこには異様な雰囲気が漂い、いかにも重そうな円盤と、地面が壊れるほどの衝撃が響き渡っていました。目の前には、100kgのバーベルを軽々と挙げる先輩の姿がありました。試しに挙げてみると、20kgで腕がぷるぷる震えていました。自分の不甲斐なさと同時に、先輩たちへの強い憧れが芽生え、100kgを挙げてみたい!という感情が溢れ出し、入部しました。

気づけば3年間のウエイトリフティング漬けの生活はあっという間で、怪我や試合での失敗にひたすら後悔していた時期もありました。ですが、結果として目標としていた100kgを挙げるのができ、3度の全国大会に出場することが出来ました。これは、親のような先生と、兄弟のような部員がいつも側にいてくれたからだと思います。入部したてで身体の節々が痛み始めたときも、夏休みの地獄のような練習を乗り越えたときも、冬の身体が凍りつくなか、バーベルを握っていたときも、いつも周りには仲間がいました。

3年生になったとき、僕は部長になりました。先代の先輩を参考にして、この第2の家族をまとめきることに尽力しました。県内の大会や、6月に行われた東海大会でも、52年ぶりの団体戦優勝が出来たときは、涙を必死にこらえながら、この部活を続けてきて本当によかったなと感動を分かち合いました。

僕は、自分を含めこのチームが最高の宝物だったと感じています。そしてこの最高のチームは、誰が部長になっても変わらなかったと思います。仲間とともに創り上げたこの3年間は、僕にとって一生の宝物になりました。これからも、この宝物にたくさんの思い出を加えていけたらいいなと思います。己に勝ち、思い(重い)を挙げろ!ウエイトリフティングありがとう!



令和5年度 東海高校総体 悲願の団体優勝

『ウエイトリフティングから得た成長』

普通科3年 佐藤 虎爾



令和5年度特別国民体育大会
念願の表彰台に立つ

この3年間のウエイトリフティング部での活動は私にとって驚くべき経験でした。最初は身体的な変化を求めて始めましたが、途中でそれ以上のものを手に入れることが出来ました。ほぼ毎日のトレーニングでの努力と継続は、自己克服の大切さを教えてくれました。重いバーベルを持ち上げるだけでなく、忍耐力、集中力の大切さ、目標を達成することの楽しさを学びました。これらの貴重な経験から、私は自分の人生における変化と成長を実感するに至りました。まず、精神的な強さと向上心を身につけました。トレーニング中の挫折や困難に直面することで、自分自身を奮い立たせる方法を学びました。それは人生の他の側面にも適用できる力であり、困難な状況でもあきらめず前に進む勇気をはぐくんでくれました。また、目標設定と計画立ての重要性を理解しました。はじめの頃は出来るだけ重たい重量を持つことが目標でしたが、それを達成するための道筋を作ることが必要だと気がきました。しかし、目標を達成するまでの道のりの中で困難と挫折がありました。高校生活で最後の大きな試合となった特別国体前に腰を疲労骨折し、私にとっては大きな試練でした。この怪我により自分の目標達成は無理なんじゃないかなと弱気になることもありましたが、怪我を抱えながらの練習は困難を乗り越える強さを身に着ける機会となりました。

結果はスナッチで8位に入賞することができ、必ず賞状をもらって帰ってくるという目標を達成することができました。この経験から、私は困難を乗り越えるための自己信頼と、目標を達成するための執着心を学ぶことができました。

ウエイトリフティングを通じて学んだことは、スポーツだけにとどまらず、人生においても活用できる物でした。困難に立ち向かい、あきらめずに目標に向かって努力する精神は、ほかの分野でも役に立つと思います。これらの学んだことを生かし大学でも頑張ろうと思います。

最後になりますが、ここまで支えて下さった山中先生や原田先生をはじめ、ウエイトリフティングで関わった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

スキー部

- ◆第72回全国高等学校総合体育大会スキー大会 出場
(太田釉、新美晴人、野呂悠月、山田篤弥、児玉綾香、神田地潤、石黒太誠、竹林空良、瀨川捺稀、久田子寧)
- ◆特別国民体育大会冬季大会スキー競技会 (いわて八幡平白銀国体) 出場
クロスカントリー【少年女子】 (久田子寧、瀨川捺稀)

『雪とともに輝く』

普通科3年 久田 子寧

「スキー」と聞くと、多くの方は斜面を滑るアルペンスキーを想像すると思います。しかし、名城高校のスキー部は、アルペンスキーと「雪上のマラソン」とも呼ばれるクロスカントリースキーの2種類の競技で活動しています。アルペンスキーとは異なり、アップダウンのあるコースを滑るため、体力と技術の両方が求められます。

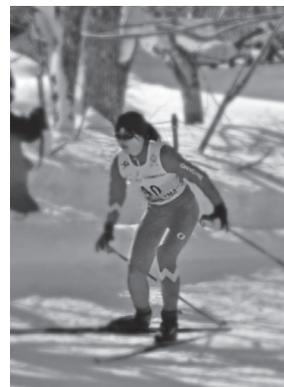
私はクロスカントリースキーの選手として、様々な経験をしてきました。スキーを一度したことがあるだけの私がこの部活に入部したきっかけは、先輩からの熱烈な勧誘です。部員と先生の雰囲気もとても良く、すぐに入部を決めました。

「スキー部は夏の練習は何をしているの」とよく聞かれますが、ひたすら体づくりとローラー練習をしています。雪上で練習できるのはたった30日程なので、シーズンインとなる冬の合宿はとても貴重な時間です。大晦日と正月以外は雪山に籠って練習を重ねます。合宿中は、朝は早くから練習し、何十キロもの距離を滑り、夜は遅くまで板の整備。寒さとハードな練習に、心が折れそうになることもありましたが、そんな時は一緒に練習する仲間たちと励まし合うことで、目標に向かって進むことができました。

クロスカントリースキーは個人競技ですが、チームとしての結束力も重要です。特にレース時は、仲間の応援や助け合いが力になりました。お互いを高め合える仲間と共に、目標に向かって努力を続けたことで、インターハイと国体の出場を決めることができました。

積み上げてきたものを信じ、自分の限界を超えた経験は、他の困難な状況にも立ち向かう勇気と自信を与えてくれたと思います。

最後になりますが、ここまで支えてくださった先生方やコーチ、家族、そして部活動の仲間などスキーを通して関わった全ての方々へ心から感謝します。本当にありがとうございました。この経験を糧に、これからも新たな挑戦に取り組んでいきたいと思っています。



陸上競技部

- ◆第39回U20日本陸上競技選手権大会 走幅跳 4位入賞 (森部諒)
- ◆令和5年度全国高等学校総合体育大会 出場 走幅跳 (森部諒)、400mハードル (上村空夢)
- ◆第17回U18陸上競技大会 三段跳 3位入賞 (中村光希)

『陸上競技はチーム競技』

普通科3年 森部 諒

全国大会も出場したことがない私が、高校では記録を大きく伸ばし国体や全国インターハイに出場することができました。1つは谷先生との出会いがあり、色々な技術や考え方を学べて、2年生では全国ランキングトップの記録をだせました。しかし、何事も順風にはいかず、怪我で苦しみ、3年生でインターハイに出場できるかも心配になりました。その時、自分を支えてくれたのは仲間でした。一緒に笑い、喜んでくれる仲間がいたからこそ、最後まで粘り強く頑張れました。北海道の全国インターハイでは決勝まで残り、1位の記録以上のジャンプを跳躍しましたが、ファールにて記録は残りませんでした。でも全力で取り組めた事に悔いはありません。大学でも陸上競技を続けるので、日本代表になれるよう頑張りたいです。

名城高校陸上部で学んだ、仲間の大切さや感謝の気持ちを忘れずに成長していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

普通科3年 渡辺 実優花

私は中学までも特別な実績もなく、高校でどのように頑張ろうか考えて入学しました。すると1年生から県インターハイにて優勝し、東海大会に出場。順調にスタートを切れました。2年生では更なる飛躍を求めて頑張りましたが、逆に怪我をしてしまい、思うような練習や大会にでれず、焦りや不安で気持ちも折れそうになりました。その時、私の支えになったのは、いつもそばで見守り励ましてくれた先生、一緒に練習をしてくれる仲間でした。陸上競技は個人競技ですが、選手のサポートをしてくれる仲間やマネージャー、練習パートナーとしてまた、ライバルとして成長しあえる仲間と鼓舞し、頑張れて大きな力となりました。

その時私は、陸上競技は、「チーム競技」だと感じました。そして、2年生の秋にはU18日本陸上競技選手権に出場することができました。自分自身を成長させてくれた仲間へ感謝したいです。この陸上部で得た経験と仲間を胸にこれからも頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。



体操競技部

- ◆令和5年度全国高等学校総合体育大会 団体出場
(大野暖人、馬場慧朗、藤木大智、山下蒼斗、【団体補欠：平子翔奈大、和出勇介】)
個人出場(溝田稜樹)、個人種目別ゆか6位入賞(大野暖人)
- ◆特別国民体育大会 出場(大野暖人、馬場慧朗、平子翔奈大)



『感謝』

普通科3年 大野 暖人

名城大学附属高等学校体操競技部には「インターハイ団体8位入賞」という目標があり、団体メンバーだけでなく、マネージャーも含めた部員18人全員が一丸となって努力することができる部活動です。部の目指す「丁寧で正確かつ美しい体操」は、全国大会でも高く評価していただけるため、私の誇りであり、これからも伸ばしていきたいと考えています。

私が最も印象に残っている出来事は、1年生の時の怪我とスランプです。今までできていた技ができなくなってしまったり、試合や練習でミスばかり出てしまうことがありました。そのような出来事が私の心に大きな負担をかけて、胸骨の脱臼骨折を起こす原因となっ

てしまいました。そんな時に顧問の先生方から「自分自身を変えるチャンスだぞ！強くなって見返してやろう。一緒に頑張ろう。」とってくださいました。一緒に練習をしていた仲間も「待ってる。いつでも助ける。」とってくださいました。怪我をする前までは見えていなかった周りの方々の優しさに気づけた瞬間でした。

高校3年間で自分の未熟さからたくさんの迷惑を先生方と仲間にかけてしまいました。そんな時に見捨てず支えてくださった顧問の西村先生、副顧問の堀尾先生と、見放さず常に寄り添ってくれた仲間たちのおかげで、インターハイ決勝では目標の8位には届かず9位でしたが、皆で支え合い、見ている人を感動させられる演技ができたと思います。この3年間で得た全ての経験を活かして、大学でも競技を頑張りたいと思います。応援してくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

ダンス部

- ◆全国高等学校ダンスドリル選手権大会 団体総合5位・ベストテクニカル賞受賞

『本当に大切なこと』

普通科3年 伊與田 和佳

今の私があるのはダンス部のおかげです。それくらい私にとってダンス部は特別なものです。

私はキャプテンを務めていました。キャプテンを務めた経験は、自分が大いに成長できたと同時に、人生で1番悩んだ期間でもありました。私はチームに厳しくすることが苦手で、注意したいことがあっても、相手の顔色を伺って発言を躊躇していました。このままではチームのためにならないと分かっているのに、なかなか一步を踏み出せずにいました。そんな時、顧問の先生やコーチから、「和佳はもっと言って大丈夫。それだけの練習をしてるから問題ない。このチームで全国で最高の演技をしたいなら、和佳が変わるしかない。」と仰ってくださいました。この言葉で私の意識が変わりました。みんなのことが好きなら、本当の意味でチームのために行動しようと思いました。目標であった全国優勝のために、キャプテンである私自身が1ミリの妥協もせず練習し、緊張感を与える存在になれるよう努力しました。そして徐々に本音で指摘し合えるようになり、チームの団結力は強まりました。

ついに迎えた夏の引退試合。私たちは目標であった全国優勝をすることができました。本当に嬉しかったです。そして喜びと同時に、毎日練習する環境を与えてくださった学校の方々、信じてついてきてくれた仲間、自分の時間を犠牲にし、近くにいなくても離れていても常に私たちを想ってエールを送ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

大会で結果を残すことが全てだと思っていた私に、その比べものにならないくらい大切な感謝の気持ちを芽生えさせてくれたのは、名城高校ダンス部でした。何度も自分の弱さとおぼつかかり、その度に沢山の愛を注いでくれた大好きな仲間と先生方。ダンス部なしで今の私はありません。これからも、ダンス部で培った経験と感謝の気持ちを胸に、新たな夢に向かって頑張ります。名城高校ダンス部と出会えて本当に幸せです。ありがとうございました。



新任教諭 (令和5年4月採用) 紹介



なかむら かおる
中村 薫
(家庭科)

退任教諭 (令和6年3月末) 紹介



やながわ つよし
梁川 津吉
(数学)

昭和58年4月～在職

それは40年前の着任の挨拶のときでした。校庭で朝礼台に立ち、まず驚いたのは黒い学生服を着た二千人を超える男子生徒の姿でした。これを目の当たりにした瞬間、これから先の得体のしれない不安を飛び越えて、教師としての覚悟を決めたのを今でも覚えています。ところが、実際に彼らと接してみると一人一人はとても純朴な青年たちでした。ただ、当時の彼らの口癖は「だって名城だもん」。自己肯定感の低い生徒が多く、これが残念でなりません。同じ思いをもった若手教員が中心となり、現状を打破しようと様々な取組を進めてきました。まずは、生徒たちが誇りをもって通える学校にしよう。中でも大きな変革は、男子校から男女共学校へ、実業科から総合学科への改組でした。その結果、今では愛知県でも有数の人気校となりました。生徒たちに無茶な要求をしたこともありましたが、教員や生徒ばかりでなく保護者や同窓生の助けがあって、今の名城大学附属高等学校の歴史が築き上げられました。その歴史の一端に関われたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。

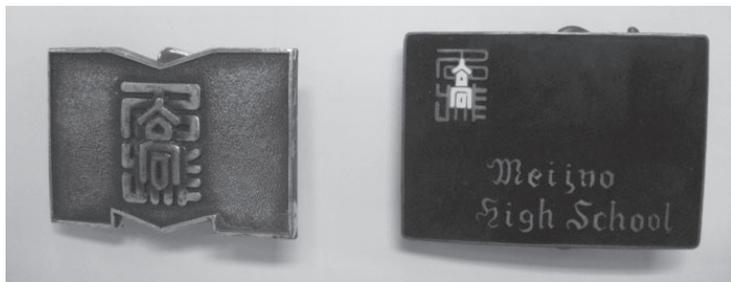
物 故 者 (令和5年1月～12月)

ここに謹んで哀悼の意を表しますと共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

氏 名	逝去年月日	享 年	教 科	在 職 期 間
高奥 昌文	令和5年3月	89歳	理科	昭和38年4月1日～平成11年3月31日

「名城大学附属高等学校ゆかりの物品」寄贈のお願い

同窓会事務局では、令和8年の開学100周年に向け本校ゆかりの物品の収集を始めました。ご家庭の押入れ等で眠っている附属高校ゆかりの物品がありましたら、ぜひお知らせください。



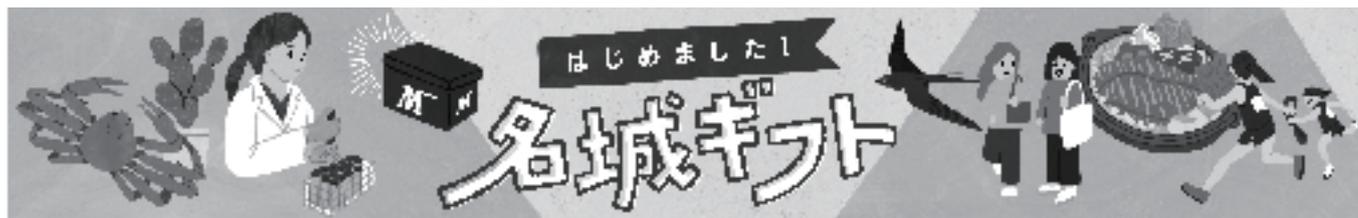
◀写真は、諏訪宏和先生(第13回生 昭和36年3月機械科卒業 平成16年3月退職)から寄贈いただいた卒業記念品のベルト用バックルです。
写真左は1962年のもの、右は1959年定時制のものです。

学校法人名城大学への募金・寄付について

学校法人名城大学では、2026年に開学100周年の節目を迎えるにあたり、次の100年に向けて、「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」という将来ビジョンを策定しました。それに伴い、開学100周年事業(大学における全学共用棟新築・国際化の推進等)を実現させるため、「名城大学開学100周年記念募金」を始めました。皆さまには、未来を担う生徒・学生たちのために、何卒力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名城大学開学100周年特設サイト
<https://www.meijo-u.ac.jp/100th/>

■名城大開学100周年記念募金 返礼品付寄付サイト「名城ギフト」



上記「名城大学開学100周年記念募金」の一環として、2023(令和5)年4月3日から返礼品付寄付サイト「名城ギフト」を開始いたしました。

本学オリジナルグッズや多様な品を約60点用意しておりますので、ぜひご利用ください。



【お問合せ先】名城大学渉外部渉外課 TEL: 052-838-2066 MAIL: ookouyu@ccml.meijo-u.ac.jp

同窓生
(サポーター)として

附属高校の
生徒達の
『夢』

応援してみませんか